

人口減少下の岐阜・柳ヶ瀬の現状*

What's happening in Gifu/Yanagase, under decreasing population?*

山田 正人**

By Masahito Yamada**

1. はじめに

十数年前には、繁栄していた岐阜の「柳ヶ瀬」が、再開発の時期にある。一時期には「柳ヶ瀬ブルース」などで全国に聞こえた町である。

もともと、酒と風俗の夜の街と、昼の劇場・映画館、服飾・雑貨のショッピング、食事の店と、もう一つ広域から仕入れに来る卸売の機能がある、岐阜のいわゆる中心商店街であった。



図 1 柳ヶ瀬（背景は google map を使用）

広域から仕入れの機能が崩れ、昼の劇場・映画館は、郊外のショッピングセンターのシネマコンプレックスに、服飾・雑貨も百貨店が 1 店舗残る。服飾や雑貨もかつての高級品を中心とする品ぞろえから、今は中国やアジアなど各国の安い品になり、精彩がない。

岐阜市の人口は減少傾向にあり、現在 40 万人の人口は、いずれ 30 万人になるといわれている。

そこで再開発となるが焦点は、「居住」ということになる。



図 2 柳ヶ瀬本通

2. 柳ヶ瀬の概況

岐阜「柳ヶ瀬」地区は、高度成長期に紡績を背景として繊維産業で集まった人々の憩いの場として、昭和 60～70 年代にかけて、隆盛を極めた繁華街である。名鉄の新岐阜（現名鉄岐阜）駅からの「神田町通り」（長良橋通）と合せて、ショッピングセンターを形成していた。

岐阜駅から神田町通りを北へ約 600m のところに徹明町がある。ここから若宮通まで、北へ 400 m、金華橋通りまで西へ 400 m の地域が、一般に「柳ヶ瀬」といわれる。

「柳ヶ瀬」は、柳ヶ瀬本通を中心に、北は若宮通、南は徹明通まで、東西は神田町通（長良橋通）から金華橋通りまでの間のアーケードの下にある地域と、金華橋通りから西に、伸びるアーケード街、忠節橋通までを「西柳ヶ瀬（スタープレイス）」と呼ばれる地域とその周辺を指す。

「柳ヶ瀬本通」は近年空き店舗が目立ち、西の方か

*キーワード：地域計画、柳ヶ瀬、夜の都市計画

**正員、工修、星城大学 経営学部

(愛知県東海市富貴ノ台2-172、

TEL052-601-6000、FAX052-601-6010)

ら夜の店や飲食店が進出しており、かつての賑わいの様子はない。中央にある、2つのビルの再開発が計画されており、東の端の近鉄百貨店の跡地の中日新聞のビルと合わせ、大きく買い物客が減った。「柳ヶ瀬本通」の北側、柳ヶ瀬の北辺、「小柳町・弥生町」は昭和40から50年代の密集した飲み屋街で、いわゆる小さなカラオケバーやスナックが、密集している小路がまだ残る地域である。昼でも、アーケードの下、薄暗い。アーケードの改修に補助金が見つからない。ところどころ若宮通りの駐車場の裏で、昼間は光が入る。夜は闇である。



図 3 西柳ヶ瀬



図 4 劇場前（左：高島屋が閉店した10時以降）

劇場通りを南に下ると玉宮町である。玉宮町を経てJR岐阜駅に至る。

近年、名鉄岐阜からJR岐阜に利用者が移行しており、町も「神田町通り」は減り、「玉宮町」は増えている。玉宮町が増えても、神田町の減り方のほうが大きいので、絶対的には歩行者の数は減っている。今後人口も減るこ

とが予想されている。この間の町並みは、近年、駐車場が増えている。空地もあり、マンションの立地が予想される。



図 5 柳ヶ瀬本通の西側から



図 5 小柳町・弥生町

現在の繁栄の中心は、アーケード街の、南西に位置する高島屋から、その東側の南北の通り、「劇場通り南」のあたりとされている。高島屋は、現在残っている唯一の百貨店である。徹明町の角の名鉄の施設は、服飾を中心にしたビルと、通りを挟んで飲食店のビルがあるが、すでに百貨店ではない。上階には100円ショップが位置しており、その上階には会議室やホールがある。

「スタープレイス柳ヶ瀬」と「柳ヶ瀬本通」の北側には夜の街が広がる。

3. 再開発の方向

現在、柳ヶ瀬で再開発の予定のビルでは、多くの場合、上層階に住宅が計画されている。資金的に十分な手当てができず、高層化して売却益をあてにする計画が見られる。また、郊外化し、無人になった街に人口を呼び戻すことにより、マンション住民は、消費者としても期待される。中心市街地に位置し、容積率も大きいことから、このような計画が成立する。一方、柳ヶ瀬は、自動

車の乗り入れができないことなどから、実現には至っていない。一部には、既存の道路を締め切っても、商業施設及びマンションを建設したいようである。

商業者は、マンションの建設に戸惑っている。どのような人が入居するのか。入居者は「まち」をどう評価するのか。など、わからないからである。また、商業者が、良くも悪くも、入りやすく出やすい街であった。

周辺の町にはマンションが建っている。駅前には、43階建のタワー型マンションができ、徹明通りの南側にも14階建マンションが、複数ある。いずれも住居専用で、低層階が商業空間でなく、いわゆる“下駄履き”ではないものがほとんどだ。柳ヶ瀬の再開発で期待されているのは、低層階に商業施設を抱えた大規模住宅・マンションである。



図 6 柳ヶ瀬の南側の街区にあるマンション（塀は金神社）



図 7 人通りが増えている玉宮町

居住者が増えると、繁華街である柳ヶ瀬も変わる、と考えられている。

これだけみると人口は増加傾向を示しそうであるが、岐阜市全体としては、むしろ人口は今後減る、といわれている。

夜にイルミネーションを灯す催しも行われている。灯りフェスタは、観光客よりも地元の人々に愛されている。

東京のように、夜に美術館・ギャラリーなど、文化施設が開いているとよい、という話もある。中心市街地の活性化策として新しい発想である。10時には、バスもなくなるようでは、このような策も日の目を見ない。

「柳ヶ瀬」には2つの商業者連合会がある。およそ周辺の道路沿い、神田町通り、徹明通り、若宮通りと金華橋通りに面したところは、おおよそ市商連、アーケードの中は県商連関連の柳ヶ瀬商業者組合連合会、通称柳商連である。

柳商連は、さらに通りを単位とする単組の集合体である。

各単組では、独自の再開発案を持っているが、実現にいたるものは少ない。権利関係が複雑なこともある。柳商連と市商連の協力関係が必要とされている。

4. おわりに

柳ヶ瀬は、バブルの折、あまり大きく変わらなかった。地場の商店主が、それなりに切り盛りして掻い潜ったといえる。

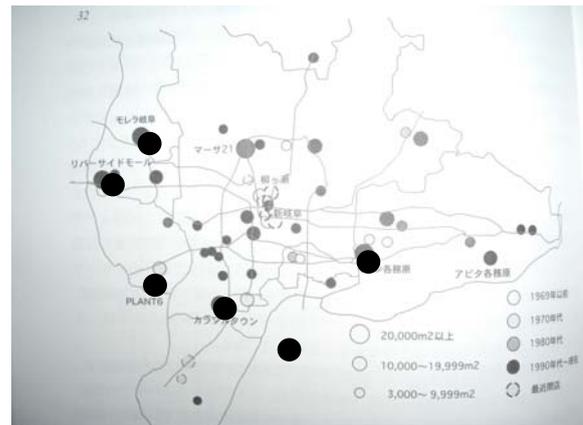


図 8 90年代以降20000m²以上の outlet

しかし、それゆえに町は、いま変わらざるを得ない状況に立たされている。旗振り役となる人物が、人心をまとめられるかが焦点である。

建物の多くが老朽化している。また駐車場が多くできている。

年老いた商店主、おかみさんのみならず、ステークホルダーとなった後継者が、うまく手綱を操れるか、見守りたい。

参考文献

富樫・合田・白樫・山崎：人口減少時代の地方都市の再生、古今書院、2007.10。
石原・加藤：商業・まちづくりネットワーク、ミネルヴァ書房、2005.2。
北村編著：鉄道でまちづくり、学芸出版社、2004.3。